



じごぜんひろば

No.110 2023年(令和5年)4月1日

地御前地区自治会

トピックス ちいさな7人の まちづくり

テレビCMで見た街の美化に共感したことがきっかけで、7人の地御前小学校5年生たちが地域の美化に取り組んでいる。ビニール手袋をして火バサミとビニール袋を持ち、トランシーバーで互いにやり取りをしながら自主的に街のゴミ拾いをしていく。

先日はキラキラ公園のゴミ拾いをし、擁壁の水抜き穴に入れたペットボトルや空き缶も取り出して回収した。その日は「見守り隊のおじちゃんの声をかけてくれて、ゴミ袋は持って行ってくれた」という。とてもステキな連携プレーだ。こんな街づくりは心の美化にも貢献してゆくとと思う。

おもてなしホステル宮島 屋上からのLIVE映像

おもてなしホステル宮島の屋上からの景色はなかなかのものなをこ存知だろうか。器具を借りて、屋上バーベキューができるサービスもあり、夜も利用できる。食事メニューもお手頃価格で充実していて、休日や週末はかなりの賑わいになっている。庶民派リゾートに変貌していた。

この度、おもてなしホステル宮島の協力を得て、自治会広報事業部で屋上にWebカメラを設置させてもらった。まだ試験運用段階で不安定ではあるが、そこからの景色をLIVE映像で自治会Webに公開してゆく。今年の管絃祭は鳥瞰映像をお届けする予定。



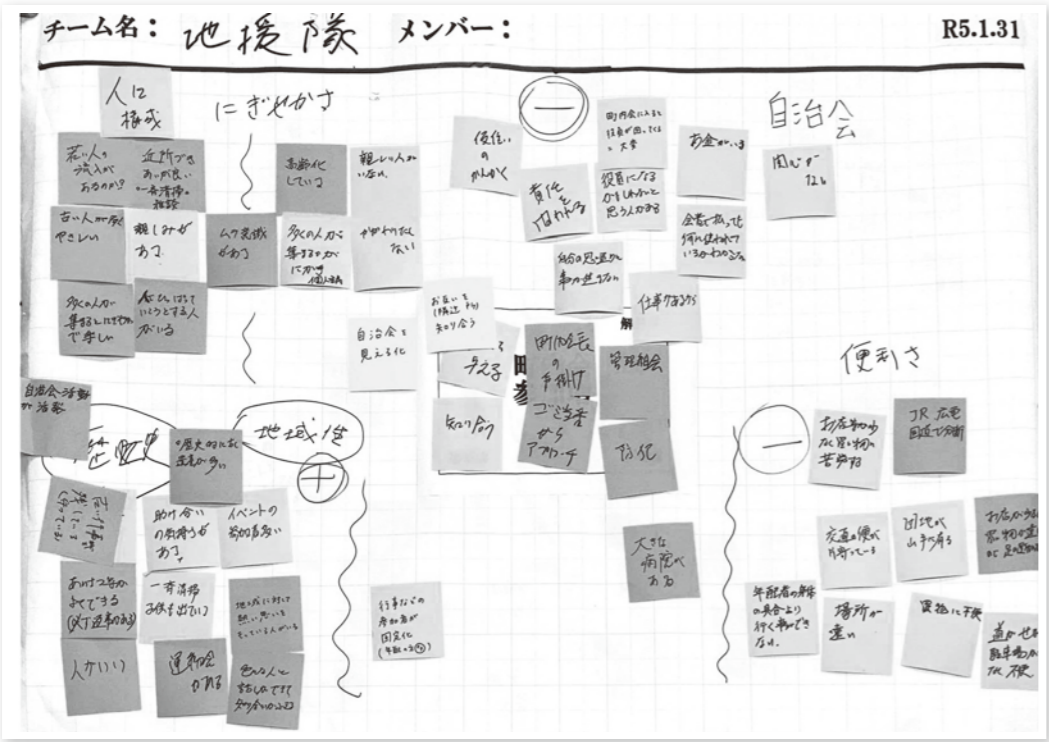
公式LINEグループ 開設準備中

ようやくコロナ禍の出口が見えて来たこともあり、自治会各事業部の活動も徐々に活発化してきた。今年には槽を囲む盆踊り開催にも期待が膨らむ。活動や催し物の計画・経過など、地元密着のタイムリーな情報はSNSで伝達できれば理想的だ。急な変更・中止情報の連絡も容易で確実なものになる。

既に友人・知人、PTAなどでもLINEの利用は常識。飲食店や物販店などの多くは公式LINEグループを開設し、いろんなサービスを展開している。自治会でも公式LINEグループを開設し、どのようなサービスの向上につなげられるか鋭意

より良い町内会・自治会運営を 目指すワークショップ開催

参加者は3つのグループに分かれて課題発見、原因追及、対策案を話し合った。自治会運営に取り入れる具体的な次のONESTEP発見となった。



グループ毎に意見(青:プラス意見 赤:マイナス意見)を付箋に書いて貼り、話し合いを進めた。

地御前地区自治会Webページはこちら



おすすめ映画

娘の勧めで見た映画が良かったので紹介したい。Amazon Primeで無料鑑賞できる。成功を取めた若き女性経営者ジュールズ・オースティン(アン・ハサウェイ)が、定年退職をした高齢者ベン・ウィテカー(ロバート・デニーロ)をシニアインターンとして直属の部下に迎えたことで、経営者としても人としても成長していく姿をコメディタッチに描いたヒューマンドラマ。PCやインターネットに疎く、業務のスピードについてゆけないベンドだったが、昔気質の「紳士」の嗜みや、親切で謙虚な人柄が若い社員たちからの信頼を得てゆく。ベンほどの完璧な人はなかなかいないと思っただが、こんな素敵な高齢者になれるよと背中を押してくれる映画だった。自治会やシニアクラブの複数の人物が浮かび、足して割ると確かにベンになると思っただ。(桐林)



集・記 編・後

▼「落胆が一番よく効く薬は奉仕である」らしい。私の廻りを見ても、予防・回復効果があることは間違いない。J・K
▼広島G7首脳会議、ロシアのウクライナ侵攻、中国の東シナ海方面の不穏な動き、北朝鮮の無謀なミサイルの乱射、など国際的に解決すべき数々の難題を抱え、5月に開催される被爆地からのメッセージが全世界に届けられる事を切望したい。▼4月1日より自転車にもヘルメット着用が努力義務化される、違反者には罰則が課せられる事もある、安全運転に努めよう。▼球春到来、先のWBCで待ジャパンが見事優勝した事は万感の思い。春の選抜大会広陵高校が躍進するも準決勝で敗退、夏を期待したい。新生広島カープ、オープン戦の成績では心配されたが、26日の最終戦では玉村の好投と両外人選手の爆発でソフトバンクに大勝利、期待を持たせた？優勝とは言わず3位は確保して貰いたいものだ。Y・Y
★好きな書籍、映画の記事を募集します。投稿をよろしくお願ひします。
RXE15645@nifty.jp
【発行】地御前市民センター内
地御前地区自治会 広報事業部

1月31日(火)に地御前地区自治会で地域の課題を取り上げて話し合うワークショップが行われた。参加者は自治会執行部、各事業部部长、廿日市市役所職員(市民センター)、地域振興課、循環型社会推進課、健康福祉総務課、生活環境課、学校教育課、障害福祉課)の約20名。
話し合いは「町内会加入率を上げるためにできること」を課題に行われた。始めに地御前地区の長所・短所について意見を申し合わせた。長所は、神社などの文化財・JA広島総合病院・牡蠣などの特産物がある、イベントが多く楽しいなど。
町内会離れの原因については、2点に要約された。役員の負担が大きいこと、町内会や自治会参加のメリットが無い(分からない)こと。「忙しい時もやらされる・何をしたらいいかわからない・相談したり助けてくれる人がいない」といった事が負担感を大きくしているのではないか。
子育てで臨機応変さが求められる若い世代には、出来るだけ余計な事は避けておきたい心情もある。これらは経験豊富で組織内で顔が広く、柔軟性のある人が相談窓口としていれば改善されるかもしれないなど、

話し合いをしてゆくうちに、町内会や自治会が何のためにあるのか、存在意義や目的は何なのかという、普段はなかなか話し合う機会のない事柄を考える意義深い時間になった。
町内会・自治会のメリットは何か。お金の面では廿日市市からの助成金や宝くじからお金が自治会に交付される点が挙げられる。町内会費だけで自治会活動が賄われているわけではない。町内会費から自治会へ振り分けているお金の6倍から10倍のお金が自治会に交付されており、活動や備品購入に充てられている。
個人のメリットは、活動を通じて地域の顔見知りが増え、活動に参加するにつれて楽しさも増してゆくことがある。学校や職場とは違う人とのつながりは、新しい視点・価値観・経験などを与えてくれる。
今年度改訂・増刷される「地御前ものがたり」を自治会から転入者にプレゼントすることで、地域への愛着を抱く手助けになるのではないかとという意見や、町内会参加率向上のために「じごぜんひろば」を町内会未加入世帯にも配布したら良いのではないかとという提案があったが、これも配布作業をす

る町内会役員の負担増になるというデメリットが挙げられた。もちろん町内会役員さんたちが宜しければ配って頂き、未加入世帯が宜しければ受け取って頂く、ということになる。このような配慮は限界ではあるが最善でもある。

地御前地区には3421世帯が住んでいる。(3月1日時点)そのうちの2288世帯(3月20日時点)が自治会加入世帯である。1133世帯が自治会未加入世帯である。町内会・自治会に未加入であっても、近隣のつながりや活動を行っている所もあるし、町内会・自治会以外にも地御前ではさまざまな組織が地元に着した行事や活動を行っている。これからは自治会だけでなくこだわらない人や活動のつながりが重要かもしれない。

自治会上にPTAもかなり前から維持存続の課題に直面している。でも「子どもたちのために」というモチベーションがあり、葛藤を抱えながらも簡単には組織が無くなったりはしていない。自治会も同じように「人の幸福を追求する」というモチベーションを今まで以上に全面に押し出し、更なるイノベーションを進める時期にあることは間違いない。

コロナ禍前同様とんど開催



令和5年1月8日(日)郷土文化保存会やシニアクラブが中心になって2年ぶりにとんどが行われた。一昨年にとんどが行われた時はコロナ禍のために飲食の提供は中止されたが、今年はシニアクラブ婦人部と地御前漁業協同組合有志の皆さんを中心に焼き牡蠣、豚汁、おしるこ、お酒などの提供が行われ、コロナ前より多い約650名が集った。午前8時に地御前神社に約30名の男性が集まるとんどの中央に立てる竹の切り出し、櫓組み、テーブルや椅子の運搬の3グループに分かれて準備にとりかかった。

9時半にはシニアクラブ婦人部の皆さんが大鍋やコンロなどを設置して、豚汁、おしるこなどの調理が始まった。また焼き牡蠣は殻付き炭火焼き約900個が用意され、技能実習生の皆さんが調理を始めて準備が進められた。

正午に年男・年女の方々の手で点火されると、一気に燃え上がり、大勢が息を呑んで見守る中、3分後には炎がマックスに達した。



準備の様子



とんどの火にあたると無病息災が叶うという

とにびっくりした様子だった。私は豚汁などを400食も寒風の屋外で調理したシニアクラブ婦人部の皆さんの手際の良さにびっくりさせられる。

スパーやコンビニ、大型商業施設さえもいつも通りに営業していて、どこかお正月を迎えた季節感が無い昨今だが、こうしてとんどに集まって、そこで地域の顔見知りの方々と新年の挨拶を交わせる事に深い感慨を味わった。みんながこうして笑顔になって集えるこのような地域の行事は本当に有難いものだと思う。初めて参加した方々にも地御前地域にある温かい連帯感を感じてもらえたのではないかなと思う。

点火の1時間半後あたりから片付けが始まり、火の後始末は最終的には3時ごろまでかかった。使い捨て食器など

令和3年7月8日の浸水災害の報告と改善策

2023年3月9日、地御前自主防災会第6回定例会において、廿日市市役所建設部下水道建設課の方々をお迎えして、令和3年7月8日の地御前地区浸水の経緯や検証および対策に関する説明や質疑応答が行なわれた。

地御前地区は、下水道事業計画で定める扇排水区内にあり、現況の排水面積は、特別支援学校付近から地御前北三丁目、地御前一・二・三丁目に至る約133haである。

道路下に埋設された雨水管渠のほか、扇ポンプ場、潮廻しを有しており、大雨時は、雨水ポンプ場と潮廻しを一体的に運用して排水することで、地域の浸水の防除を図っている。扇ポンプ場には平成元年に3台のポンプが整備されており、それ以降は宮島



街道が数時間にわたる通行止めとなるよな道路冠水は生じていなかった。

ところが令和3年7月8日7時から9時頃は、宮島街道で冠水した範囲は、JA広島総合病院西交差点を中心に約150mの区間で、深さは最大50cmに達した。14時から15時半頃は、同じ範囲での冠水深さは最大20cmとなっていた。

JR山陽本線北側にて局所的に生じた道路冠水は5cmから15cmであった。その他にも広範囲にわたって10cmから50cmの冠水・浸水が生じた。

浸水は複数の要因が重なって生じたものと考えられる。70mm/時という過去に例のない大雨が降ったこと。それに既存のポンプの排水能力では対応できなかつたこと。ポンプの冷却設備が電気がトラブルで約16分間停止したこと。潮廻しの貯留能力を十分に活かせなかつたこと。土砂やゴミで集水軒が目詰まりして排水機能が阻害されたことなどである。

地御前地区のモデル作成を行い、シミュレーション解析を行なったが、雨水ポンプの停止が無かつた場合でも冠水は防げない結果となつた。それを踏まえて潮廻しの活用改善策(早期のポンプ稼働設定)を実施した。また、ポンプ場の耐震補強およびポンプ増設を令和5年度に行なうこととしている。これによるシミュレーション解析では、ほぼ冠水は生じない結果を得ている。

保健体育事業部主催ペタンク大会

2月25日(土)地御前小学校グラウンドにて保健体育事業部主催のペタンク大会が3年振りに開催された。

開会行事前にハッピーオレンジが2曲を披露した。各自がオレンジのバンダナを思い思いに身につけて個性を發揮し、大会を盛り上げた。



ペタンク大会には12チーム55名が参加した。1ゲームを15分制限とし、A・B・C・Dコートに分かれてリーグ戦を行い、各コートの1位〜3位でトーナメント戦が行なわれた。ペタンクとは、鉄球(740g)を投げたり、転がしたりするカーリングに似たルールの競技である。

3年ぶりの開催ということもあって、ペタンクは初めてという参加者が半数以上いたが、年齢・性別を問わず親しみやすい競技なのですぐに要領をつかんでゲームをしていた。とんでもない暴投があるかと思えば、ミラクルショットも出たりするなど、白熱のゲーム展開でとても盛り上がった。友達同士や親子でのチーム参加だったので活動全体がとても賑やかなものとなっていた。



競技を終えた子どもたちの一部はモルックというゲームも楽しんだ。これは木製バトンを投げて数の書いてあるピンを倒し、倒れた本数が点数となるフィンランド発祥のゲームである。チーム対抗で50点丁度になるまで投棒を繰り返して、50点を超えてしまつたら25点に戻り、再度50点になるまで続ける。ペタンク同様に単純な

のゴミも大量に出た。準備から後片付けまでの労力たるや大変なものになる。それらをこなす郷土文化保存会、シニアクラブ、地御前地区自治会、地御前漁協、PTA有志、民生委員、町内会役員の皆さんの地御前愛や熱意、人柄が地域行事からは伝わってくる。確かに行事のお世話は大変だが、この皆さんのお手伝いができることが楽しくて、私も参加し、記事を書いている。地御前には他人を喜ばせたい人がとても大勢住んでいる。行事の度にますます愛着が深まってゆく。

6月22日(木)には御陵衣祭・馬飛ばし、8月3日(木)には管絃祭が予定されている。6月6日(火)午前8時から境内の清掃活動が行われる予定。地域親交の財産だと思ふ。(桐林)



シニアクラブ婦人部の皆さんの奮闘ぶり



ゲームだが、やってみると意外に奥の深いゲームだ。

最後に全チームに順位毎の賞品や参加賞が渡された。賞品の中にはJA直産ふれあい市場「よりん彩」から提供して頂いた商品もあった。ゲームでも盛り上がったが、予想外の豪華賞品に、授賞式も盛り上がった。

ペタンクには屋外のものや屋内のものがある。いずれでも行えるように地御前地区自治会保健体育事業部が道具の貸し出しをしているので、希望者は是非活用して欲しい。

